目次

Ⅰ　学生の確保の見通し等 1
１．学生の確保の見通し等 1
（1）入試実績から学生確保の見通し 1
（2）学生アンケートから学生確保の見通し 5
（3）学生納付金の設定の考え方 8
2. 学生確保に向けた具体的な取組状況（予定） 8
Ⅱ　人材需要の動向等社会の要請 8
1.　養成する人材像や教育研究上の目的 8
2.　養成する人材像に対する社会的ニーズの客観的な根拠 10

Ⅰ　学生の確保の見通し等

１．学生の確保の見通し等

本研究科の入学定員 335 名は，次のような考えから設定した。本研究科は，既存の 4 研究科（博士前期課程と修士課程）を一つの研究科として再編するものであり，この 4 研究科の入学定員の合計は 338 名であるが，このうち 3 名を教育学研究科専門職大学院「教育実践高度化専攻」（教職大学院）に振り分け，残る 335 名を地域創生科学研究科の入学定員とした。また，研究科を構成する専攻の入学定員は，社会デザイン科学専攻 77 名，工農総合科学専攻 258 名とした。

社会デザイン科学専攻に対応する旧専攻（国際社会研究専攻 10，国際文化研究専攻 10，国際交流研究専攻 10，学校教育専攻 25 の 70%，地球環境デザイン学専攻 33，農業環境工学専攻 12 の 50%，農業経済学専攻 8）の入学定員の合計は 95 名であり，工農総合科学専攻に対応する旧専攻（機械知能工学専攻 37，電気電子システム工学専攻 37，物質環境化学専攻 42，情報システム科学専攻 38，先端光工学専攻 25，生物生産科学専攻 41，農業環境工学専攻 12 の 50%，森林科学専攻 10，学校教育専攻 25 の 30%）の入学定員は 243 名である。なお，学校教育専攻は文系・実技系，理系に分かれており，農業環境工学専攻も土木系と機械系で 2 専攻に分かれたことから，教員の比率で按分した。さらに，文系の定員充足率が低い一方で工学系の定員充足率が相対的に高いことから，両専攻間で今までの定員充足率等を総合的に判断して，上記のように入学定員を設定した。

この入学定員に対して，客観データから示される学生の確保の見通しは，次のとおりである。

（1）入試実績から学生確保の見通し

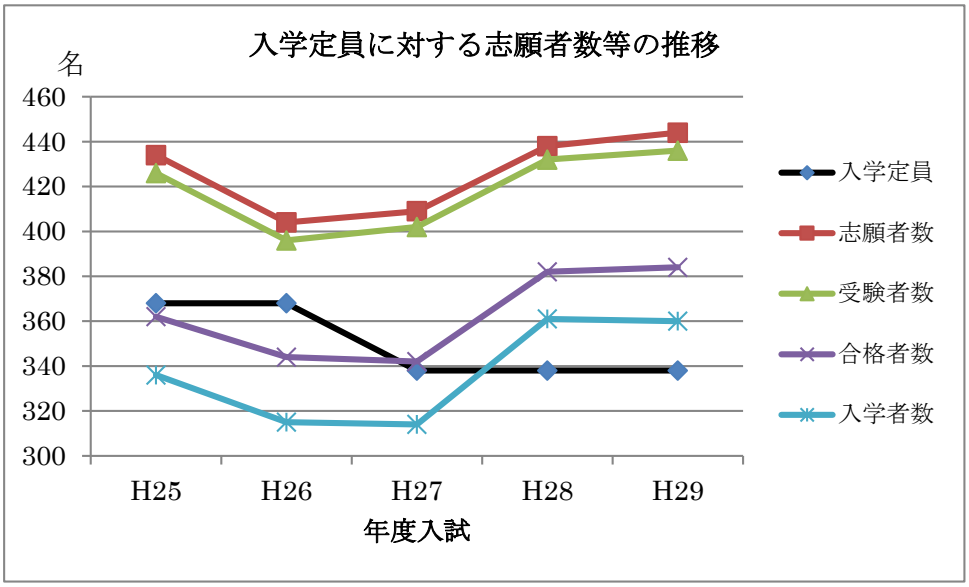
【資料１　宇都宮大学大学院入学試験実施結果】

「大学院入学試験実施結果」（平成 25 年度入試～29 年度入試：本学 HP で公表）を客観データとして，学生の確保について検討した。まず，地域創生科学研究科の入学定員 335 名に対応して，5 年間の入学定員，志願者数，受験者数，合格者数，入学者数，入学者定員超過率の推移を表で整理し，各人数について図にしたのが下記のとおりである。

＜地域創生科学研究科の学生確保の見通し＞

宇都宮大学	年度入試				
	H25	H26	H27	H28	H29
入学定員	368	368	338	338	338
志願者数	434	404	409	438	444
受験者数	426	396	402	432	436
合格者数	362	344	342	382	384
入学者数	336	315	314	361	360
入学定員超過率	91.3	85.6	92.9	106.8	106.5

注）●本研究科に対応する 4 研究科（国際学研究科，教育学研究科（教職大学院を除く），工学研究科，農学研究科）の合計値である。
●教育学研究科の入学定員は，平成 26 年度まで 70 名であったが，平成 27 年度から 25 名とした。このうち，教職大学院の設置，工学研究科の純増と教育学研究科の純減にそれぞれ 15 名とした。
資料 1：「大学院入学試験実施結果」（宇都宮大学 HP で公表している）



平成 27 年度以前は，教職大学院の設置等による入学定員の変動があり，時系列に直接比較できないが，直近 3 か年の入学者数は，平成 27 年度に 314 名と下回っているがその後増加して 361 名（H28），360 名（H29）と地域創生科学研究科の入学定員 335 名を上回る（108%）実績がある。また，志願者数と受験者数も 3 年間で増加傾向にあることからも，地域創生科学研究科の入学定員 335 名を上回る学生が確保できる見通しである。

＜社会デザイン科学専攻の学生確保の見通し＞

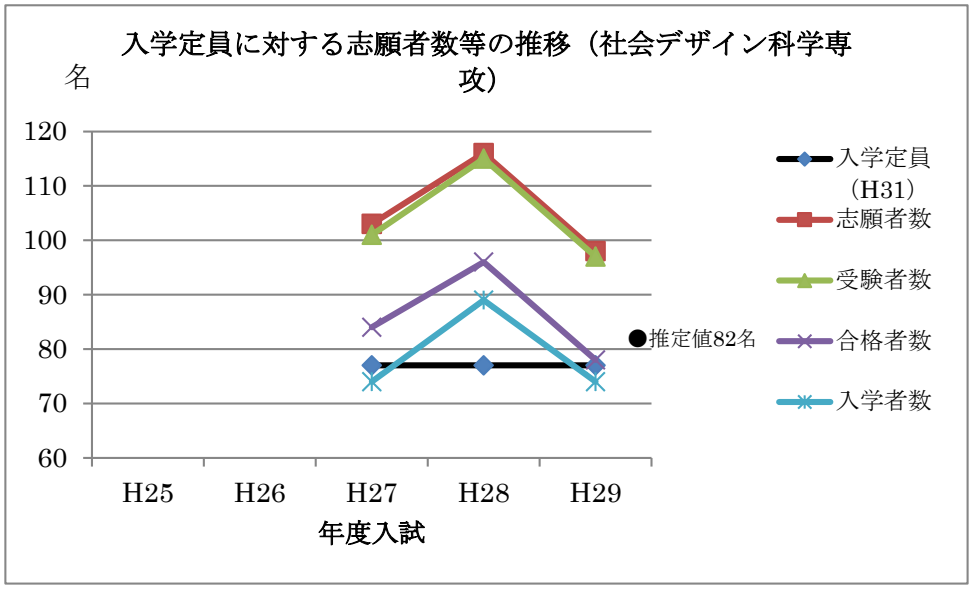
研究科全体と同じように，社会デザイン科学専攻に対応する旧専攻（国際社会研究専攻，国際文化研究専攻，国際交流研究専攻，学校教育専攻の 70%，地球環境デザイン学専攻，農業環境工学専攻の 50%，農業経済学専攻）の実績を直近 3 年間について，再集計し整理したのが下記のとおりである。なお，平成 26 年度以前とは，教職大学院の設置により入学定員が異なっているので直近 3 か年の実績とした。

社会デザイン科学専攻	年度入試				
	H25	H26	H27	H28	H29
入学定員（H31）			77	77	77
志願者			103	116	98
受験者			101	115	97
合格者			84	96	78
入学者			74	89	74
入学定員超過率			96.1	115.6	96.1

注）●本専攻に対応する旧専攻の合計値である。

●平成 26 年度以前は，教職大学院の設置により入学定員が異なっているので除いている。

資料 1:「大学院入学試験実施結果」（宇都宮大学 HP で公表している）



注）平成 29 年度の入学者数は，社会デザイン科学専攻の定員 77 名を下回っているが，地域デザイン科学部の設置にともなって地域デザイン工学系の基盤となる学部定員は 70 名（建設学科）から 90 名（建築都市デザイン学科と社会基盤デザイン学科）に 20 名純増している。この 20 名に，従来の進学率 42.3%（建設学科の直近 3 か年平均）を乗じた人数を平成 29 年度の入学者に加えると 82 名となる。このように，社会デザイン科学専攻の定員 77 名を上回る学生の確保が見込まれる。

このように，専攻の入学定員 77 名に対して，3 か年の志願者（103 名，116 名，98 名），受験者（101，115，97）及び合格者（84，96，78）は，いずれも入学定員を上回っており，学生確保の条件は揃っている。

直近の平成 29 年度の入学者が 74 名と専攻の定員 77 名を下回っているが，地域デザイン科学部の設置にともなって地域デザイン工学系の基盤となる学部定員は 70 名（建設学科）から 90 名（建築都市デザイン学科と社会基盤デザイン学科）に 20 名純増している。この 20 名に，従来の進学率 42.3%（建設学科の直近 3 か年平均）を乗じた人数を平成 29 年度の入学者に加えると 82 名（入学定員超過率 106.5%）となる。

以上のことから，社会デザイン科学専攻の定員 77 名を上回る学生の確保が見込まれる。

＜工農総合科学専攻の学生確保の見通し＞

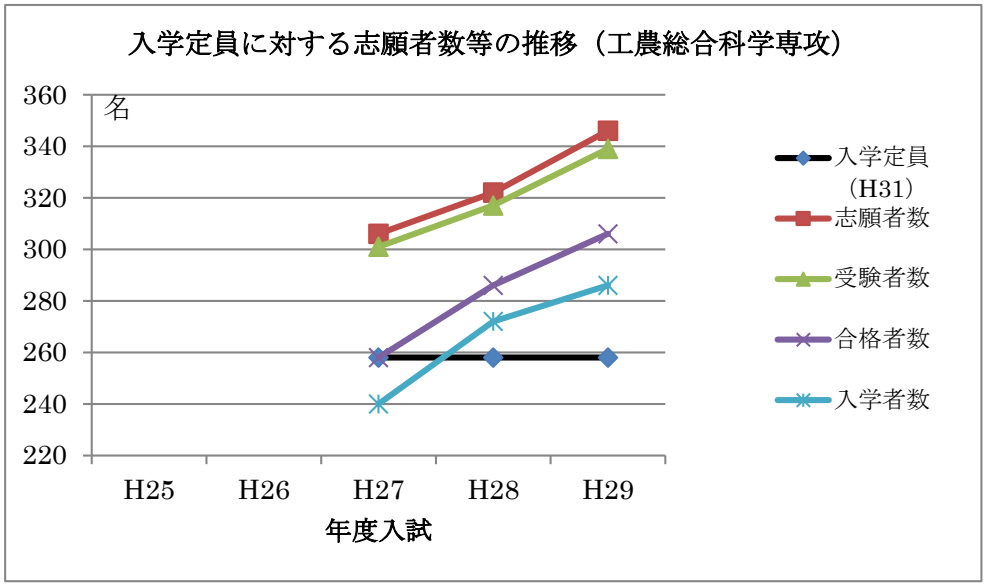
工農総合科学専攻に対応する旧専攻（機械知能工学専攻，電気電子システム工学専攻，物質環境化学専攻，情報システム科学専攻，先端光工学専攻，生物生産科学専攻，農業環境工学専攻の 50%，森林科学専攻，学校教育専攻 30%）の実績を直近 3 年間について，再集計し整理したのが下記のとおりである。

工農総合科学専攻	年度入試				
	H25	H26	H27	H28	H29
入学定員（H31）			258	258	258
志願者			306	322	346
受験者			301	317	339
合格者			258	286	306
入学者			240	272	286
入学定員超過率			93.0	105.4	110.9

注）●本専攻に対応する旧専攻の合計値である。

●平成 26 年度以前は，教職大学院の設置等により入学定員が異なっているので除いている。

資料 1:「大学院入学試験実施結果」（宇都宮大学 HP で公表している）



このように，専攻の定員 258 名に対して，平成 27 年度の入学者を除いて全ての人数が定員を上回っており，特に，直近 3 か年は全てが増加傾向にある。平成 29 年度入試では，志願者 346 名，受験者 339 名，合格者 306 名，入学者 286 名（入学定員超過率 110.9%）となっている。

以上のことから，工農総合科学専攻の定員 258 名を上回る学生の確保が見込まれる。

（2）学生アンケートから学生確保の見通し

【資料２　設置構想資料】

【資料３　調査票様式（学部学生版）】

現在，大学院生の大部分は本学学部生からの進学者であることから，在籍者にアンケート調査を行い，先の客観データに対して学生ニーズから学生確保の見通しと学際的教育に関する魅力度を整理した。なお，本調査時では研究科名称を「学際創生科学研究科」（仮称）としていた。その後，最終的に「地域創生科学研究科」とし，「地域創生科学専攻」は「社会デザイン科学専攻」に変更し，「工農創生科学専攻」は「工農総合科学専攻」に変更した。また，旧構想中のコース（１１コース）を廃止し，学位プログラム（16）を単位として学位の質保証を行うことにした。

本研究科とアンケート調査時の育成する人材像について比較すると次のとおりである。

「学際創生科学研究科」(調査時) : 21 世紀の複雑化した課題を解決するために，高度な専門知識・技術を身に付けるとともに，学際的な幅広い思考力と実践力を備えて，革新的な制度・システム・イノベーション等の創生に関して主体的に行動できる人材。

⇒

「地域創生科学研究科」: 持続可能な豊かな地域社会を創生するために，社会デザインやイノベーションに関する高度な専門知識を身に付けて，学際的思考力と実践力を備えて主体的に行動できる高度専門職業人。

このように, 名称等の変更はあるが, 学際的思考力や実践力を持った高度専門職業人を養成し, 持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するという大きな枠組みと教育研究の内容は重なるとこ

ろが多いことと，新専攻と旧専攻との対応関係には調査時と変更がない事から，このアンケート調査結果から学生確保を見通すことを判断した。

＜調査概要＞

調査日：平成 29 年 10 月

調査対象：宇都宮大学学部 3 年生 990 名

調査項目：別紙資料 3 参照（アンケート表）

＜調査結果＞

学部 3 年生 990 名に行ったアンケート調査の回収は 596 名（60.2%）であった。

●大学院への進路希望（問 3）

①進学せず就職を希望	344 名	57.7%
②修士課程まで進学	149 名	25.0%
③博士課程まで進学	12 名	2.0%
④未定	91 名	15.3%

学部 3 年生のうち修士課程と博士課程の進学希望者は全体の 27%（161 名）であり，未定者を除いた就職希望者と進学希望者に占める進学希望者の割合をみると 31.9%（161 名÷505 名）であった。このように，32%が大学院進学の母数として推定される。

●大学院進学の動機（問 4：2 つ回答可）

大学院への進学者希望者 161 名の進学動機は，「学部で身に付けた知識・技術を更に深めたい」が 116 名（72%），「大学等の教育機関，企業等で研究・開発に携わりたい」が 77 名（47.8%）と，専門性を高めて専門職に携わりたいとする学生が多くを占めている。その一方で，「教養と専門性を共に修得し，専門職にとどまらない，多様な領域で活躍したい」が 39 名（24.2%），「研究を通して企業や国内外の大学・研究機関とも連携し，グローバルに活躍したい」が 30 名（18.6%）となっている。このように，学際的な領域への関心も 25%と高く，また，専門的知識・技術を身に付けてグローバルに活動することに約 20%の学生が興味を持っている。

① 学部で身に付けた知識・技能を更に深めたい。	116 名	72.0%
② 大学等の教育機関，企業等で研究・開発に携わりたい。	77 名	47.8%
③ 教養と専門性を共に修得し，専門職にとどまらない，多様な領域で活躍したい。	39 名	24.2%
④ 研究を通して企業や国内外の大学・研究機関とも連携し，グローバルに活躍したい。	30 名	18.6%
⑤ 地元に貢献したい。	13 名	8.1%
⑥ その他	13 名	8.1%
⑦ 特に理由はない。	8 名	5.0%

●新大学院の特色に関する魅力（問 5）

大学院進学希望者（161 名）が新大学院の特色として魅力があると感じているのは，「グローカルな素養の養成」が 106 名（65.8%），「文系学生も理系の素養の養成」が 85 名（52.8%），「理系学生も文系の素養の養成」が 106 名（65.8%）となっており，本学の教育資源（地域デザイン学部，国際学部）を活かしたグローカルな素養への関心や，異なる分野に関する関心は大きいと言える。若干，数的なものへの苦手意識から文系学生も理系の素養を身に付ける割合が相対的に低くなっているが，それでも半数以上が関心を示している。

新大学院の特色に関する魅力	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない	不明
5-1: グローカルな素養の養成	25 名	81 名	37 名	17 名	1 名
5-2: 文系学生も理系の素養を養成	14 名	71 名	51 名	24 名	1 名
5-3: 理系学生も文系の素養を養成	34 名	72 名	34 名	20 名	1 名

＜学生確保の見通し＞

大学院への進路希望（問 3）の回答から，研究科と専攻の学生確保を見通した。専攻に対応する回答については，学生が所属する学部・学科の回答を，下記のように該当する専攻に振り分けた。なお，学校教育専攻と農業環境工学専攻は 2 専攻に分かれたことから，教員の比率で按分した。

社会デザイン科学専攻は，国際学部 46，教育学部 169 の 70%，建設学科 55，農業環境工学科 11 の 50%，農業経済学科 10 を集計した。その回答数は，235 名である。

工農総合科学専攻は，機械システム工学科 58，電気電子工学科 63，応用化学科 82，情報工学科 29，生物資源科学科 20，応用生命化学科 34，農業環境工学科 11 の 50%，森林科学科 19，教育学部 169 の 30%を集計した。その回答数は 361 名である。

大学院への進路希望（問 3）	地域創生科学研究科		社会デザイン科学専攻		工農総合科学専攻	
計	596 名	100.0%	235 名	100.0%	361 名	100.0%
①進学せず就職を希望	344 名	57.7%	186 名	79.1%	158 名	43.8%
②修士課程まで進学	149 名	25.0%	23 名	9.8%	126 名	34.9%
③博士課程まで進学	12 名	2.0%	1 名	0.4%	11 名	3.0%
④未定	91 名	15.3%	25 名	10.6%	66 名	18.3%

●地域創生科学研究科

学部 3 年生のうち修士課程と博士課程の進学希望者は全体の 27%（161 名）であり，未定者を除いた就職希望者と進学希望者に占める進学希望者の割合をみると，31.9%（161 名÷505 名）であった。このように，32%が大学院進学の母数として推定される。3 年在学生 990 名にこの割合を乗じると，大学院への進学予定者は 316 名と推計される。これに，学外日本人学生 49 名（直近 3 か年平均）と留学生 39 名（直近 3 か年平均）の志願者を加えると，404 名となる。これは，地域創生科学研究科の入学定員 335 名を上回っており，学生ニーズから見ても学生確保の条件は揃っている。

●社会デザイン科学専攻

未定者を除いた就職希望者と進学希望者に占める進学希望者の割合をみると，11.4%（24 名÷210 名）であった。このように，12%が大学院進学の母数として推定される。3 年在学生 417 名にこの割合を乗じると，大学院への進学予定者は 50 名と推計される。これに，学外日本人学生 26 名（直近 3 か年平均）と留学生 30 名（直近 3 か年平均）の志願者を加えると，106 名となる。これは，地域創生科学研究科の入学定員 77 名を上回っており，学生ニーズから見ても学生確保の条件は揃っている。

●工農総合科学専攻

未定者を除いた就職希望者と進学希望者に占める進学希望者の割合をみると，46.4%（137 名÷295 名）であった。このように，46%が大学院進学の母数として推定される。3 年在学生 573 名にこの割合を乗じると，大学院への進学予定者は 264 名と推計される。これに，学外日本人学生 23 名（直近 3 か年平均）と留学生 9 名（直近 3 か年平均）の志願者を加えると，296 名となる。これは，地域創生科学研究科の入学定員 258 名を上回っており，学生ニーズから見ても学生確保の条件は揃っている。

（3）学生納付金の設定の考え方

本学の初年度納付額は，817,800 円（授業料年額 535,800 円，入学料 282,000 円）で近隣の国立大学法人と同額である。

2. 学生確保に向けた具体的な取組状況（予定）

新研究科設置の際には，その広報に関して時間的余裕が余りない事から，広報委員会と入試委員会及び新研究科の専任教員が一体となって，学生確保に向けて広報活動を行う。具体的には，次の取組を予定している。

①3 年次学生へのアンケート調査

新大学院への進学対象となる 3 年生を対象に平成 29 年 10 月にアンケート調査を実施した。これは，学生のニーズを把握するとともに，学生に対して構想中の新大学院の概要を早く周知し，新大学院への関心を高めることを目的として行った。

②学部別ガイダンス

大学院生の大部分を本学の学生が占めることを踏まえて，本学の学部ごとに新研究科の教育課程の特長や想定される出口及び入試の内容等を中心としてガイダンスを実施する。

③ホームページやパンフレット等による広報

新研究科の概要等をホームページ上に公開するとともに，パンフレットなどの多様な資料を作成し全国的に関連する多くの教育機関に広報する。

④広く社会への広報

設置認定の時期に合わせて，新研究科の目的や特長的な取組等を中心に記者発表を行い，広く社会に向けて情報を発信する。

この外にも，随時，必要な効果的な広報に努めることとする。

Ⅱ　人材需要の動向等社会の要請

1. 養成する人材像や教育研究上の目的

＜「地域創生科学研究科」の理念，目的＞

地域創生科学研究科の理念は，『21 世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために，社会デザインとイノベーションの創造を支える高度な人材を育成するとともに，特長的で強みのある研究を推進する。』（“持続可能な豊かな地域社会の創生”と“社会デザインとイノベーションの創造”）ことである。

社会デザイン科学専攻は，21 世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会を創生するために，地域社会に関するソフトウェア（コミュニティ，社会制度，文化，政策等）やハードウェア

（建築，国土保全，環境等）のデザインに関する教育研究を推進する。そのために，21 世紀の複雑化した課題を解決し，地域並びに国際社会の発展・創生に貢献する人材育成を目的として，既存の４研究科から社会デザインのソフト面やハード面に関する人文科学，社会科学，工学，農学，教育学の分野を再編して一つの専攻を構成する。

工農総合科学専攻は，21 世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会を創生するために，工学分野と農学分野に関するものづくり，食料・農林業・環境を支えるイノベーションについて教育研究を推進する。そのために，イノベーションの創造や関連する課題を解決し，地域や産業の発展に貢献する人材育成を目的として，既存の工学研究科と農学研究科を再編して一つの専攻を構成する。

＜育成する人材像＞

研究科及び専攻の育成する人材像は次のとおりである。

A　地域創生科学研究科

持続可能な豊かな地域社会を創生するために，社会デザインとイノベーションに関する高度な専門知識・技術を身に付けて，学際的な幅広い思考力と実践力を備えて主体的に行動できる高度専門職業人を育成する。

そのために，3C 精神（主体的に挑戦し Challenge，自らを変え Change，社会に貢献する Contribution）+1（Creation：創造的思考力・実践力）を基本的考えとして，社会デザインとイノベーションに関する高度な専門的知識・技術，学際的な思考力と実践力及び分野間の連携等を実践するために必要な根源的視野，俯瞰的視野，コミュニケーション能力，行動力等を養成する。

B　社会デザイン科学専攻

21 世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会を創生するために，地域社会に関するソフトウェア（コミュニティ，社会制度，文化，政策等）やハードウェア（建築，国土保全，環境等）のデザインに貢献できる高度専門職業人を育成する。

C　工農総合科学専攻

21 世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会を創生するために，工学分野と農学分野に関するものづくり，食料・農林業・環境を支えるイノベーションの創造やマネジメントに貢献できる高度専門職業人を養成する。

＜教育課程：地域創生リテラシーとプログラム科目＞

社会の抱える問題・課題が高度化・複雑化しているなかで，大学院修了生が高度専門技術者として指導的役割を果たすためには，専門的知識・技術の修得に特化するだけでなく，課題解決に向けて強靭に且つしなやかに対応する思考力と行動力を身に付ける必要がある。そのためには，目先の成果だけに捉われない雄大な構想や着想が重要であり，歴史を踏まえながら物事の本質について深く考える力や，実践的なコミュニケーション能力，グローバル化への対応力や協働性，従来の学術分野に捉われないで多面的な視野から課題に挑戦するチャレンジ精神等の養成が必要である。これらは，全ての専門分野において共通に必要であり，研究科全体の“科学リテラシー”として身に付けるべき能力である。このことから，研究科の共通として「地域創生リテラシー」（８単位）を設けた。これは， 21 世紀の高度な科学リテラシーとして，学際的思考力と実践力の基礎を養成する。

プログラム科目（22 単位）では学術分野の科目履修と，研究活動・テーマに関する「特別演習」，「アカデミックコミュニケーション」，「特別研究」から，学位の専門性の質を保証する。また，境界領域・学際領域の学術を発展させるために，学位プログラム間で連携共通科目を配置したり，多様な研究者交流による体験学修として「アカデミックコミュニケーション」を配置するとともに，複数指導教員体制（デュアル副指導）を活用して，高度な学際的思考力と実践力の教育を行う。

2. 養成する人材像に対する社会的ニーズの客観的な根拠

【資料２　設置構想資料】
【資料４　宇都宮大学大学院「学際創生科学研究科（仮称）設置に関するアンケート調査[企業・団体対象調書]結果報告書】
【資料５　宇都宮大学大学院「学際創生科学研究科（仮称）設置に関するアンケート調査[企業・団体対象調書]結果全体集計表】
【資料６　調査票様式（企業版）】

アンケート調査の研究科名，専攻名は調査時点の名称であり，調査票の学際創生科学研究科は「地域創生科学研究科」に，地域創生科学専攻は「社会デザイン科学専攻」に，工農創生科学専攻は「工農総合科学専攻」に対応している。なお，本専攻とアンケート調査時の専攻について，育成する人材像について比較すると次のとおりである。

「地域創生科学専攻」（調査時）：21 世紀の複雑化した地域や国際的な課題を解決するために，地域社会デザインや地域デザイン工学及び国際社会，多文化共生，人間発達に関する高度な専門知識・技術を身に付けて，地域・国・世界の発展・創生に貢献する人材。
⇒
「社会デザイン科学専攻」：21 世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会を創生するために，地域社会に関するソフトウェア（コミュニティ，社会制度，文化，政策等）やハードウェア（建築，国土保全，環境等）のデザインに貢献できる高度専門職業人。

このように，地域社会デザインや地域デザイン工学及び国際社会，多文化共生，人間発達として表現していた対象を社会デザインとして括っているが，持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために，地域社会に関するソフトウェアやハードウェアのデザインについて教育研究を推進するという大きな枠組みは重なっている。

「工農創生科学専攻」（調査時）：イノベーションの創造や関連する課題を解決するために，ものづくりや食・農業に関する工学系や農学系の高度な専門知識・技術を身に付けて，地域や産業の発展に・創生に貢献する人材。
⇒
「工農総合科学専攻」:21 世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会を創生するために，工学分野と農学分野に関するものづくり，食料・農林業・環境を支えるイノベーションの創造やマネジメントに貢献できる高度専門職業人。

このように，持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために，工学分野と農学分野のイノ

ベーションを支える人材を育成するという大きな枠組みは重なっている。

以上のことから，調査時と名称等の変更はあるが重なる部分が大きいことから，このアンケート調査結果を用いて学生確保を見通すことにした。

① 調査概要

調査は外部機関に委託し，企業・団体を対象に，平成 29 年 10 月 30 日（月）～11 月 24 日（金）の期間に郵送によって実施した。調査対象は，本学大学院修了生が就職している，もしくは就職先として想定される 1,100 企業・団体の人事関連業務に携わっている人を対象とした。その内，314 社から有効回答を得た（有効回答率 28.5%）。

② 回答企業の属性

回答企業・団体の業種としては，「製造業」が最も多く 28.7%，「情報通信業」（13.7%），「サービス業」（12.7%），「卸売・小売業」（11.5%），「建設業」（10.2%），「公務」（3.8%），「金融・保険業」（3.2%）と続き，ここまでの累計で 83.8%を占めている。

また，正規社員・職員の採用数（過去 3 か年平均）規模別では，「1～5 名未満」（20.4%）が最も多く，「10～20 名未満」（18.2%），「100 名以上」（15.3%），「50～100 名未満」（11.8%），「20～30 名未満」（9.9%），「30～50 名未満」（9.6%）となっており，特定の規模層に偏りなく回答を得ている。

活躍を期待する学問系統別（複数回答）では，「学問系統にこだわらない」（48.7%），「工学系統」（46.5%），「理学系統」（29.0%），「経済・経営・商学系統」（27.1%），「農・水産学系統」（17.8%），「法学系統」（16.6%），「社会学系統」（13.4%），「語学系統」（13.4%），「国際関係学系統」（12.1%）となっており，本研究科を構成する地域デザイン科学，国際学，教育学，工学，農学の分野をカバーする企業・団体から回答を得ている。

以上のことから，回答企業は本研究科・専攻の養成する人材像に対応して，就職先として予想される業種や規模及び学問系統を網羅しており，その結果を社会的ニーズの客観的な根拠として利用することにした。

③ 調査結果

新大学院への基本構想・特色に対する魅力度と，修了生の採用意向は次のとおりである。なお，魅力度とは「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」と回答した企業・団体の割合である。

＜魅力度＞

A　既存の研究科を一つに大括り化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・魅力度　63.1%

B　文理融合・分野融合によって新領域創成にチャレンジ・・・・・・・・・・・ 魅力度　82.2%

C　高度な「科学リテラシー」として，学際的思考の基盤，倫理観，実践的なコミュニケーション能力を養成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 魅力度　83.1%

D　地域と国際の観点からグローカルな素養を養成・・・・・・・・・・・・・・・ 魅力度　86.0%

E　文系の学生も，理系の素養を養成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 魅力度　91.4%
F　理系の学生も，文系の素養を養成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 魅力度　89.8%
● 研究科で育成する人材像・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 魅力度　92.4%
● 社会デザイン科学専攻で育成する人材像・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 魅力度　83.8%
● 工農総合科学専攻で育成する人材像・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 魅力度　86.0%

このように，教育課程での学際的思考力や文理融合に対する魅力度は，いずれも 80%を超える高い水準にある。また，既存の研究科の大括り化については 60%と相対的に低くなっているが，研究科で育成する人材像を魅力的だと評価する企業・団体は 92.4%と高く，学際的思考力や文理融合の教育課程を実現するためには大括り化が効果的である。

以上のことから，本研究科の理念の下で育成する人材像や，それを実現するための教育課程に対する社会的な需要は十分に存在しているといえる。

＜専攻別の社会的必要性，採用意向，採用想定人数＞

専攻別に社会的必要性，採用意向及び採用想定人数は，次のとおりである。なお，採用予定数は，採用意向の企業・団体の採用想定人数の集計値である。

● 社会デザイン科学専攻
　○ 社会的必要性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 必要　76.8%
　○ 採用意向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・180 社　57.3%
　○ 採用想定人数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・220 人
● 工農総合科学専攻
　○ 社会的必要性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 必要　79.3%
　○ 採用意向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・208 社　66.2%
　○ 採用想定人数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・263 人

このように，専攻がこれからの社会にとって必要だと評価する企業・団体は，それぞれ 75%を超えており，採用意向を持っているのも 180 社と 208 社にのぼる。

その結果，採用想定人数は社会デザイン科学専攻で 220 人と入学定員 77 人を上回り，工農総合科学専攻も 263 人と入学定員 258 人を上回っており，専攻に対する人材需要があるといえる。